

～会津のお米と誇り～ 会津支部長

有限会社 加藤建具店 代表取締役 加藤 武志

去る2月26・27日会津支部全員参加による茨城県の水戸・大洗方面へ旅行に行ってきました(会津支部発足初)

二日間とも曇一つない晴天の下、まっ青な太平洋を眼下に眺む「大洗水族館」、お土産を買い求める人でごった返しの「めんたいパーク」、満開の梅と香りで迎えてくれた「偕楽園」を巡り、夕食は大洗名物の「あんこう鍋」に舌鼓、現地の旬を五感で感じてきました。何より会員全員が参加できたことが、一番の喜びで、最高の思い出となりました。

そんな旅先で、いつも組合員が口を揃えて言われることは「やっぱり会津の米が一番だなぁ」と、何気なく出る言葉にどれだけの郷土愛と誇りを持っているか。この言葉を聞いた時に、会津に生まれ育った事に感謝し、忙しさに追われる日々も、また美味しいお米を食べて頑張れます。

祖父の代から三代目として、25年建具職人をしていますが、会津のお米を誇るように自分の仕事を堂々と誇るには、まだまだなってはいません。それが出来たら最高の営業なんだらうなぁと、3年前に他界した先代に言われた事を思い出します。「お客様の手の届かない所に手を貸す商売をしろ」と少しづつその言葉の意味を噛み締めながらの毎日です。

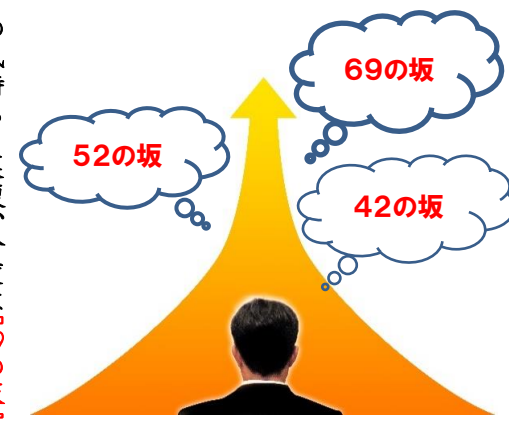
これからリフォーム組合とお客様を通じ、三歩進んで二歩下がるのではないですが、少しづつ成長していきたいものです。



追伸、私事ですが、3月5～7日念願だった兵庫県の姫路城と竹田城、3月末には能登半島へと旅行三昧の予定で、大変楽しみにしています。また旅先で会津のお米と誇りを味わってこようと思います。

“69の坂の頂きに上って”
この年になると様々な事を考え、事実、頭をめぐらしますが、まず初めに、設立当初から一緒に酒を飲みかわしてきた小森重勝様のご冥福をお祈り致したいと思います。
42の坂、52の坂そして69の坂、歳の節目に色々と感じない何者かが待ち構えていてくれます。当地ではこのような坂を「鬼門」とされ、その坂を越えるのに各々が様々な苦難と遭遇して生きています。多くの方々も遭遇され乗り越えられて来たものと思われませんが、その例えに漏れず私もその坂を家族と多くの友人、取り巻く人達の支えによって自分自身乗り越えることが出来ました。
『42の坂』昭和63・64年と、直腸腫瘍手術、人工肛門閉鎖手術、あの2年間は家族と一緒に「生きる」ということはこんなに大変な仕事なんだと、この戦いでした。何年も経ってからの家内からの話「それから7年間は、何時癌が再発するかもしれない」との不安で一杯だったそうです。そんな事とは知らずに私は我儘やりたい放題だったそうです。直腸腫瘍手術以降の1年間の毎日の生活は、想像を絶する毎日でした。最近では数多くの人工肛門の人達がいるとの事、その人達の毎日の生活を察し致します。その姿を目の当たりに見ている妻、子供、家族、そして癌の人に告知される「7年という一つの区切り」今振り返り話してくれました。その一言一句を思うと、只々感謝の言葉しか見当たりませ

その気持ちと裏腹、今度は『69の坂』「今度もかよ」と言われても仕方ない事でしょう。昨年の9月21日病名「頭蓋骨陥没骨折」当の本人に意識はなく病状解らず。執刀医から家内への説明は、脳直近であり、方が一死に至るかもしれないし、術後、記憶喪失、健忘症の恐れもありますとの説明、「本人のみならず」顧みるとソツとするような出来事であり、無事生還させて頂いた事に安堵、感謝しなくてはと書いています。直腸腫瘍手術の際は患部を相当縫いましたが、今回は面積の少ない頭を22針、本当に生々しい傷跡で、それを見ただけで大変な：怪我だったのだと振り返ります。さしたる後遺症もなく、今こうして生かされている事、おごることなく、過信することなく、自問自答しながら、人工肛門の後遺症と仲良くし、先ある人生を咲かせる人生と念じ、恩返しして行きたいと思っています。
【会津支部】
有限会社 内川水道工業
代表取締役会長 内川 由紀



彼岸という言葉は、仏教の用語で「煩惱に満ちた現世である此岸(しがん)を離れて修業を積むことで煩惱を脱して、悟りの境地に達した世界(彼岸)に到達する」という意味です。お彼岸にお墓参りをする風習は、日本だけの独特のもので、お彼岸の中日である春分の日の意味は「自然を称え、生物を慈しむ」、秋分の日が「先祖を敬い、亡くなった人々を偲ぶ」という意味をもっています。

その昔、西は「西方浄土」といわれ、仏様がいらっしゃる極楽浄土の世界として、西に向かって念仏すれば必ず往生されると信じられていました。そのため、太陽が真東から昇って

真西に沈む春分「彼岸」と「此岸(しがん)」がもっとも通じやすくなる秋分この日をお彼岸とするようになりました。

また、親類が亡くなってから、初めて迎えるお彼岸を「初彼岸(はつひがん)」といいます。

このように彼岸には春分の日と秋分の日があり、それぞれを中日として、前後の3日を合わせた7日間これが「お彼岸」と呼ばれる期間となります。

また、お彼岸の始まる日のことを「彼岸入り・彼岸の入り」といい、お彼岸が終わる日のことを「彼岸明け・彼岸の明け」といいます。

私が今あるのはご先祖様のお陰です。

皆で墓参り、受け継ぎしていきたい風習です。

「ありがとうございます。」

【白河支部】
株式会社ナリイ工業
代表取締役 成井 正之



藤井様邸リフォーム工事

Before



●お客様の声●
築28年の我が家の、特にダイニングキッチンを中心とした水回りのリフォームを相談させて頂きました。リフォームは、老後の生活スタイルをイメージして床暖房などもご提案頂き、この冬は快適な朝を迎えることが出来ています。

●工事担当者●

お子様も独立されて、御夫婦二人での快適な生活を送りたいと希望されLDK浴室・洗面所・トイレのリフォームをご相談頂きました。オール電化と床暖房を提案させて頂きました。

LDKとトイレ・洗面所を床暖房にされ 施工後「寒さ知らずで 快適！」とおっしゃられた奥様のお顔を見るとうれし限りです。気にされていた光熱費もガス・が無くなり、かえて低料金になり、何より灯油入れの煩わしさが無くなり、とても喜ばれておられました。

これからもお客様にご満足頂ける様な仕事をしてまいりたいと思っております。

【白河支部】 有限会社 SUE 設計
代表取締役 諏江 俊一

After

